

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

早春の候、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

先般より報道されております、介護職に従事する職員の不祥事について、ニュースを観るたびに胸が締めつけられる思いで一杯になってしまいます。

以前、お笑い芸人が女子校生の制服を盗んで逮捕されたという事件がありましたが、その件に対し、こんなコメントをされた方がいました。「お笑いの人

笑いの職業に就いていたのだ」と。

お笑い芸人に対する誤解とイメージダウンを危惧した発言だと思いますが、介護職員の不祥事も同じことが言えます。このような報道を観た一般の方に、「介護職＝問題を起こす人」という誤解を抱かれてしまうことだけは、絶対にあってはならないと思います。

イメージをよくするのも悪くするのも、すべては私たち介護職の意識次第です。私たちはこれからも襟を正し、今の日本を支えて下さった高齢者の方々に尊敬の念を持ち、お一人お一人の尊厳を遵守していきたいと存じます。

思わぬ花冷えに、お風邪など召されませんよう、くれぐれもご自愛下さいませ。

サンライズの物語

ともに病気を抱える夫婦が、最期まで支え合って、そして二人で天国へ・・・

この素敵なお夫婦愛に、悲しくも感動すら覚える物語

その方は、重度のパーキンソン病に罹患されているご主人様を、甲斐甲斐しく介護されていた奥様でした。奥様も糖尿病に罹患されており、ヘモグロビンA1Cの数値が12.5と、糖尿病患者の中でも大変重度な方でした。お二人には、1日でも早く大きな病院へ受診して血糖コントロールをしないと、このままでは奥様が倒れてしまい、ご主人様も困ると何度もお話していた矢先のこと・・・

ご主人様が体調不良で入院され、土曜日に退院が決まったとの連絡をいただいたのが前日でした。その翌々日の月曜日、訪問マッサージの方が自宅を訪問すると、玄関を上がったところで二人が倒れているとの一報が入りました。

ご主人の上に覆い被さるようにして、奥様が息を引き取っているとのこと。ご主人様は生きていたのです。土曜日の午前中に退院して自宅へ戻ったとすれば、二昼

夜半にわたり冷たくなっていく奥様の下で身動きできず過ごしたということになります。そのことを思うと胸が痛くなったのを思い出します。

しかし、そこに更なる悲しい出来事が起こります。火曜日に息子さんから「父は元気で病院で食事を摂っている」との連絡にホッと、合わせて奥様のお葬式が木曜日に決まった、との連絡もいただきました。しかし翌日水曜日の朝、息子さんからなんと「父が亡くなりました」との知らせが・・・本当に愕然と致しました。次の木曜日、お弔いに訪問した時には、お二人の棺が並んでいて、長男・長女様方が涙ながらに「母が父を連れて行ったのですね」と・・・

なんとという夫婦愛だったのかと涙が零れたのと同時に、奥様の病気のこと、土曜日に退院すると聞いていたこと等思い出し、私に何かできることはなかったのかと自問自答し、介護職としての自分の不甲斐なさにただただ、悔しい思いに苛まれました。

一つ一つの経験の中から、前を向き成長しなければいけないと、心に誓った瞬間でもありました。

介護に役立つ書籍紹介

「99の言葉の杖」

著者：早川浩士
(有限会社ハヤカワプランニング 代表取締役)
日本医療企画「介護福祉経営士」サブテキスト



故事成語(四字熟語)とその成立の背景にあるエピソード等を、介護現場の例を交えながら紹介しています。介護は対人サービスであり、よりよい介護サービスの提供には人財育成が欠かせません。そして人財育成には、トップやリーダーの豊かな《人間力》が必要不可欠です。

《人間力》がなければ、小手先のマネジメント・スキルをいくら駆使したところで、真の人財育成はできないでしょう。トップやリーダーの《人間力》をより高めるために、本書を大いにご活用ください。

【本書の特徴】

介護経営月刊誌『最新介護経営 介護ビジョン』で10年続く人気連載が書籍に。99の四字熟語(故事成語)から、CSとESを向上させる介護経営のあり方を学ぶ! 本書は、介護福祉経営士の重要な5つの柱のうち「人財育成・管理」と「サービス向上」に必要な《人間力》を鍛える本です。

NEWS 今月のニュース

伊達・認知症対応型通所施設の 畑作業で自主性尊重

伊達市中稀府町の畑のただ中にある三角屋根の一軒家。玄関に入ってすぐの明るい洋間で、認知症のある高齢の男性、女性が昼食に箸をのぼす。料理に使われるトマトやダイコン、ホウレンソウなどは、全て自分たちが畑で育てた手作りだ。

市内と登別市で福祉事業などを展開するラ・ファエル(伊達市)が運営する「ライフカレッジ家風」。外見は一般住宅だが、認知症対応型の通所介護(デイサービス)のほか、空き部屋をコミュニティスペースとして無料で貸し出す。利用者本人の経験や記憶を生かした活動を展開し畑作業、花手芸が3本柱。中でも人気なのは畑作業だ。

施設の横に広がるテニスコート大の畑に、野菜を植え始めたのは昨年5月。道具を用意すると、家庭菜園の経験者が多かったこともあって1人、また1人と畑に足を運ぶようになった。中には育て方のコツを施設スタッフにアドバイスする人も。育てる野菜は40種を超える。収穫したての野菜は、スタッフが調理して昼食に出る。「これは私が育てたの」「取れたてはおいしいね」と笑顔が広がる。

利用者の多くは認知に関わる何らかの症状を抱えている。ある利用者は、徘徊などの傾向があるために、他の施設からここに移動して笑顔が増えた。畑作業に夢中になり通所回数が増えた人もいる。

同施設は利用者に適切な対応ができず一時、休業した苦い過去がある。反省を踏まえ昨年4月に再

開したときに掲げたのが、利用者の自主性の尊重だった。

施設管理者の日景学さんは「畑作業は引きこもりの防止にもつながっている。地域包括ケアシステムや日本版CCRCの実現が叫ばれる中、受け身のデイサービスからの脱却を図りたかった」と話す。施設では朝夕の送迎に合わせた安否確認などのサービスにも取り組んでいて、今後も利用者の自主性を尊重した取り組みを進めるという。



<室蘭民報2016年3月4日(金)>

今月の 名言

うまくいかなかったときには、自分に力がなかったからだと考える。

良い結果が出たときには、頑張ってきた成果だと考える。

人生に偶然はない

三浦知良 (J2横浜FC所属 元サッカー日本代表)

サッカーに詳しくない方でも、「キング・カズ」をご存知の方は多いことでしょう。48歳になった今も現役で活躍されていて、プロ生活30年を迎え、プロリーグに所属するサッカー選手としては世界最年長だそうです。この「自分への厳しさ」と「謙虚さ」が、一流たるゆえんなのですね。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>

